

[東京外国語大学](#) > [TUFS Cinema](#) > [TUFS Cinema 上映作品](#) > 上映会『アマ・ルール 大地の人・バスク』

上映会『アマ・ルール 大地の人・バスク』

2018年10月26日 [TUFS Cinema 上映作品](#)

上映後、トークセッションつき

登壇者：

姫田 大（洗足学園音楽大学 非常勤講師）

姫田 蘭（民族文化映像研究所 理事）

萩尾 生（東京外国語大学 教授）



©民族文化映像研究所

開催情報

開催日時 **2018年12月15日（土） 14:00開映（13:30開場）**

Date 15 December 2018 (Sat.) 14:00 start (Doors open 13:30)

会場 **東京外国語大学 アゴラ・グローバルプロメテウス・ホール**

Venue Prometheus Hall (Hall name), Agora Global (Building name), Tokyo University of Foreign Studies

プログラム / Programs

- 『アマ・ルール 大地の人・バスク』本編上映
- トークセッション：
 - 姫田 大（洗足学園音楽大学 非常勤講師）
 - 姫田 蘭（民族文化映像研究所 理事）
 - 萩尾 生（東京外国語大学 教授）

その他 **入場無料、先着501名、申込不要、一般公開**

Others Admission-free / First 501 people / No application required / Open to the public

主催：東京外国語大学 TUFS Cinema

共催：一般社団法人民族文化映像研究所

作品紹介

【制作】民族文化映像研究所

1981年／日本／105分／日本語

本映画は、姫田忠義（1928-2013）と民族文化映像研究所が、フランスのコレージュ・ド・フランスのジャック・ルフィエ教授（1921-2004）との共同作業の成果として、1981年に完成させたドキュメンタリー映画です。「アマ・ルール」とは、バスク語で《母なる大地》を意味します。ピレネー山脈の西端部で、フランスとスペインの国境を挟んで広がるバスク人は、インド=ヨーロッパ系語族よりも古くからこの地に生きてきたと、形質人類学や言語学の知見から考えられており、西ヨーロッパの先住民の一事例として注目されています。アイヌ民族への興味を端緒として1970年代に来日した形質人類学者のルフィエ教授は、日本の基層文化の映像による記録を行っていた民族文化映像研究所の活動に感銘を受け、「日本人の目によるヨーロッパの基層文化の記録」の共同作業を提案しました。調査・記録には、フランスとスペインの研究者に加えて、バスク文化の優れた伝承者が参加し、バスク地方で撮影が行われました。本映画は、羊飼いの移牧生活にスポットを当てつつ、バスク社会の基礎単位である「エチェ（家）」と「エチェコ・アンドレア（家の女=主婦）」の存在や、祝祭や歳事の様子などバスク伝統文化の諸相を、淡々と、しかし暖かい眼差しでもって描出した秀作です。



@民族文化映像研究所

トークセッション登壇者紹介



姫田 大

(洗足学園音楽大学 非常勤講師)

フルート、民族音楽学。林リリ子にフルートの、林光に作曲の手ほどきを受ける。桐朋学園大学音楽学部卒。遠山偕成会学術奨励金の給費を得て渡仏。パリ・エコール・ノルマル音楽院と、仏国立科学研究センター（CNRS）研修生として旧パリ国立民衆伝統芸術博物館（ATP）民族音楽部門で学ぶ。2008年には金沢21世紀美術館、2009年川崎市市民ミュージアムにて「粟津潔 複々製に進路をとれ 展」の一環として「林光+姫田大 風のコンサート」に出演。CD林光「パリ1923」（ADS-007）がある。洗足学園音楽大学非常勤講師。



姫田 蘭

(民族文化映像研究所 理事)

幼少の頃より父・姫田忠義の影響で映像による記録作業を知る。音楽製作に活動は始まり、主にドキュメンタリー映画、テレビ番組の音楽を製作。しかし2000年以降は映像製作を専業として活動、現在に至る。また民族文化映像研究所のメンバーとして、過去に撮られた膨大な映像資料、録音資料などの整理・アーカイブを担当。日本映画大学非常勤講師（映像民俗学担当）、「映像のまち・かわさき」推進フォーラム理事。



萩尾 生

(東京外国語大学 教授)

専門はバスク地域研究／言語社会学。20世紀後半に興ったバスク語復権運動に関与して以来、バスク語とバスク社会の関連を掘り下げている。近年は、世界に散らばるバスク系コミュニティも考察の対象としている。主な業績は、論文“External Projection of the Basque Language and Culture” *BOGA*, vol.1, Iss. 1, 2013、共著*Egile nafarren euskal literaturaren antologia*, Nafarroaren Gobernua, 2017、共訳書『バスク初文集』平凡社2014年、など。なお、バスク語ウェブ・ジャーナル Euskalkultura.comに、2018年より関連記事を連載中。

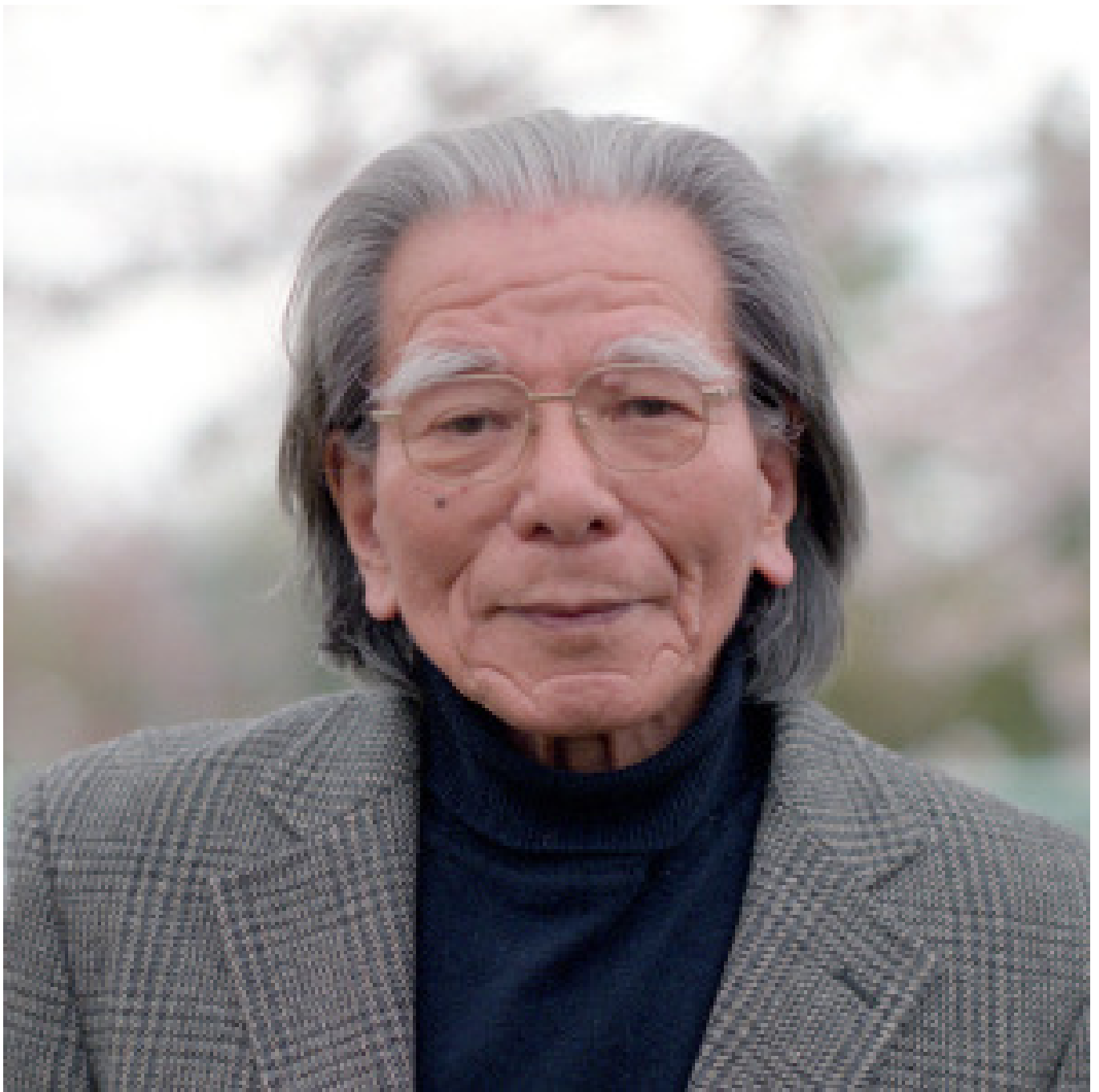
民族文化映像研究所とは



民族文化映像研究所（略称・民映研）は、1976年の設立以来、庶民の暮らしを映像で記録・研究することを目指して出発した民間の研究所。活動の初源は1950年代にはじまる。約3000kmに及ぶ長大な日本列島。そこには長い「歴史時間」の中で培われた「自然との深い対応と共生」の人間の生活・文化がある。そのありようを見つめ、記録を続けて40年。そしてその作業は、日本国内にとどまらず、フランスなど世界諸民族の地へも広がった。作品はフィルム119本、ビデオ作品は200本を超える。

民族文化映像研究所初代所長で 『アマ・ルール 大地の人 バスク』 制作者

姫田 忠義



記録映像作家・映像民俗学者。1928年（昭和3年）兵庫県神戸市生まれ。1954年、民俗学者の故・宮本常一氏と出会い、その影響を受けて日本全国を歩き始める。1976年、民族文化映像研究所を設立し、2012年まで所長を務める。≪「基層文化」＝大自然に依拠しつつ暮らす、人間の精神文化≫をテーマに、120本を超える映画作品を発表。代表作に「アイヌの結婚式」「イヨマンテ」、「越後奥三面 ～山に生かされた日々」（1986年シカゴ国際映画祭ドキュメンタリー部門銀賞）。1989年、フランス政府より芸術文化勲章オフィシエ叙勲。2013年7月、死去。

TUFS Cinema

アマ・ルール 大地の人 バスク

ヨーロッパの基層文化
— 移ろいゆくものと留まり続くもの —

©民族文化映像研究所

【上映作品情報】

本映画は、姫田忠義(1928-2013)と民族文化映像研究所が、フランスのコレージュ・ド・フランスのジャック・ルフィエ教授(1921-2004)との共同作業の成果として、1981年に完成させたドキュメンタリー映画です。「アマ・ルール」とは、バスク語で「母なる大地」を意味します。

ピレネー山脈の西端部で、フランスとスペインの国境を挟んで広がるバスク人は、インド=ヨーロッパ系民族よりも古くからこの地に生きてきたと、形質人類学や言語学の知見から考えられており、西ヨーロッパの先住民の一事例として注目されています。

アイヌ民族への興味を端緒として1970年代に来日した形質人類学者のルフィエ教授は、日本の基層文化の映像による記録を行っていた民族文化映像研究所の活動に感銘を受け、「日本人の目によるヨーロッパの基層文化の記録」の共同作業を提案しました。調査・記録には、フランスとスペインの研究者に加えて、バスク文化の優れた伝承者が参加し、バスク地方で撮影が行われました。

本映画は、羊飼いの移牧生活にスポットを当てつつ、バスク社会の基礎単位である「エチェ(家)」と「エチェコ・アンドレア(家の女=主婦)」の存在や、祝祭や歳事の様子などバスク伝統文化の諸相を、淡々と、しかし暖かい眼差しでもって描出した秀作です。

【制作】民族文化映像研究所

1981年/日本/105分/日本語

2018年
12月15日 土
14:00上映開始 開場13:30

場所 **東京外国語大学**
アゴラ・グローバル プロメテウス・ホール
東京都府中市朝日町3-11-1

◎映画『アマ・ルール 大地の人 バスク』
本編上映(105分)
◎トークセッション(50分)
姫田 大 (洗足学園音楽大学 非常勤講師)
姫田 蘭 (民族文化映像研究所 理事)
萩尾 生 (東京外国語大学 教授)

入場無料/先着順/申込み不要(定員501名)

主催:東京外国語大学TUFS Cinema
共催:一般社団法人民族文化映像研究所



【JR中央線】「武蔵境」駅のりかえ西武多摩川線「多磨」駅下車徒歩5分
【京王電鉄】「飛田給」駅北口より多磨駅行き京王バスにて約10分「東京外国語大学前」下車

【お問合せ】
東京外国語大学 総務企画課 広報係
(TUFS Cinema担当)

TEL **042-330-5150**
(平日9:00-17:00)

Email soumu-koho@tufs.ac.jp
Facebook [@tufscinema.pr](https://www.facebook.com/tufscinema)
Twitter [@tufscinema](https://twitter.com/tufscinema)

詳細は TUFS Cinema ウェブサイトにて
<https://tufscinema.jp/>

TUFS Cinema とは、

東京外国語大学が不定期に開催する

一般公開の映画上映会のことです。

世界には、さまざまな価値観や

言語文化的背景を持つ

民族・宗教・社会が存在し、

多種多様な「暮らし」が繰り広げられています。

こうした世界の諸地域の諸相を

映像とトークセッションを通して見つめ、

理解を深めていく機会を提供する企画です。

トークセッション登壇者のご紹介 *Talk Session*



ひめだ だい
姫田 大 (洗足学園音楽大学 非常勤講師)

フルート、民族音楽学。林リリ子にフルートの、林光に作曲の手ほどきを受ける。桐朋学園大学音楽学部卒。遠山備成会学術奨励金の給費を得て渡仏。パリ・エコール・ノルマル音楽院と、仏国立科学センター(CNRS)研修生として旧パリ国立民族伝統芸術博物館(ATP)民族音楽部門で学ぶ。2008年には金沢21世紀美術館、2009年川崎市市民ミュージアムにて「葉津深 複々製に進路をとれ 展」の一環として「林光+姫田大 風のコンサート」に出演。CD林光「パリ1923」(ADS-007)がある。洗足学園音楽大学非常勤講師。



ひめだ らん
姫田 蘭 (民族文化映像研究所 理事)

幼少の頃より父・姫田忠義の影響で映像による記録作業を知る。音楽製作に活動は始まり、主にドキュメンタリー映画、テレビ番組の音楽を製作。しかし2000年以降は映像製作を専業として活動、現在に至る。また民族文化映像研究所のメンバーとして、過去に撮られた膨大な映像資料、録音資料などの整理・アーカイブを担当。日本映画大学非常勤講師(映像民俗学担当)、「映像のまち・かわさき」推進フォーラム理事。



はぎお しょう
萩尾 生 (東京外国語大学 教授)

専門はバスク地域研究/言語社会学。20世紀後半に興ったバスク語復興運動に関与して以来、バスク語とバスク社会の関連を掘り下げている。近年は、世界に散らばるバスク系コミュニティも考察の対象としている。主な業績は、論文「External Projection of the Basque Language and Culture」BOGA, vol.1, Iss. 1, 2013、共著Egile nafarren euskal literaturaren antologia, Nafarroaren Gobernu, 2017、共訳書「バスク初文集」平凡社2014年、など。なお、バスク語ウェブ・ジャーナルEuskalkultura.comに、2018年より関連記事を連載中。

民族文化映像研究所とは

民族文化映像研究所(略称・民映研)は、1976年の設立以来、庶民の暮らしを映像で記録・研究することを目指して出発した民間の研究所。活動の初源は1950年代にはじまる。約3000kmに及ぶ長大な日本列島。そこには長い「歴史時間」の中で培われた「自然との深い対応と共生」の人間の生活・文化がある。そのありようを見つめ、記録を続けて40年。そしてその作業は、日本国内にとどまらず、フランスなど世界諸民族の地へも広がった。作品はフィルム119本、ビデオ作品は200本を超える。

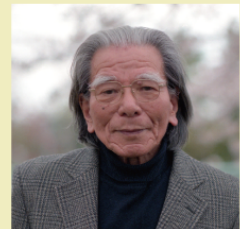


映像文化映像研究所初代所長で
『アマ・ルール 大地の人 バスク』制作者

ひめだ ただよし 姫田 忠義

記録映像作家・映像民俗学者。

1928年(昭和3年)兵庫県神戸市生まれ。
1954年、民俗学者の故・宮本常一氏と出会い、その影響を受けて日本全国を歩き始める。1976年、民族文化映像研究所を設立し、2012年まで所長を務める。《「基層文化」=大自然に依拠しつつ暮らし、人間の精神文化》をテーマに、120本を超える映画作品を発表。代表作に「アイヌの結婚式」「イヨマンテ」、「越後奥三面 ～山に生かされた日々」(1986年シカゴ国際映画祭ドキュメンタリー部門銀賞)。1989年、フランス政府より芸術文化勲章オフィシエ叙勲。2013年7月、死去。



映像民俗学シリーズ『日本の姿』DVD

人はひとのなかで、自然のなかで、どのように生きてきたか。日本各地の生活文化を記録した民族文化映像研究所のドキュメンタリーシリーズ。全12作品をDVD4巻に収録。

【収録作品】 1. アイヌの結婚式 / 2. 山に生きるまつり / 3. 椿山 / 4. 奥会津の木地師 / 5. 龍郷のアラセツ / 6. 寝屋子 / 7. イヨマンテ 熊おくり / 8. 下園の十五夜行事 / 9. 金沢の羽山ごもり / 10. からむしと麻 / 11. 竹縄のさと / 12. 越前和紙

DVD全4集
DVD各巻(一般販売価格) 4,000円(税別)

第一集: 87分
第二集: 88分
第三集: 93分
第四集: 99分



バスクのことを学んでみよう! ~書籍紹介

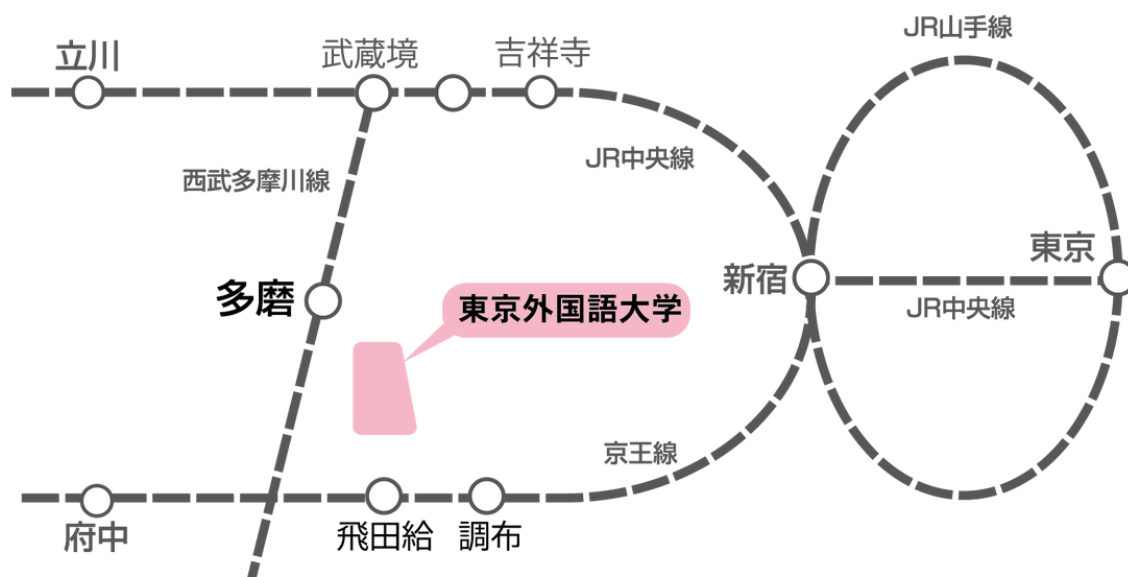


萩尾生、吉田浩美 著

『現代バスクを知るための50章』
(明石書店、376頁、2012年、定価:本体2,000円+税)

スペイン北東部からフランスとの国境をまたいで位置するバスク地方。独自の言語や文化、ETAのテロ活動で有名だが、近年では観光開発が進み、芸術、グルメ、スポーツ等でも注目を集めている。歴史から現代事情まで、バスクについての基本事項がわかる1冊。

会場のご案内

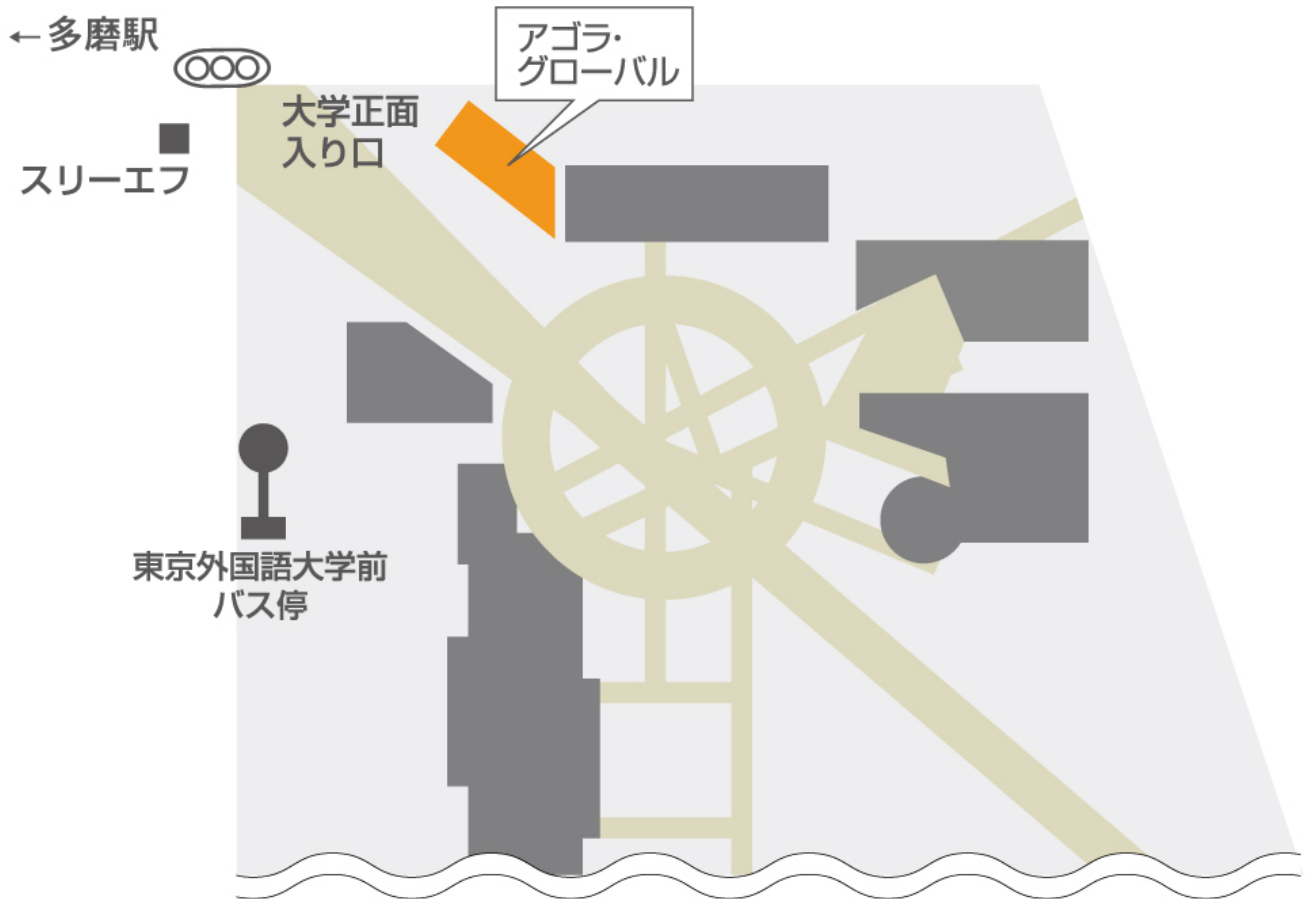


◆〒183-8534 東京都府中市朝日町3-11-1

◆JR中央線「武蔵境」駅のりかえ 西武多摩川線「多磨」駅下車 徒歩5分
(JR新宿駅から約40分)

◆京王電鉄「飛田給」駅北口より多磨駅行き京王バスにて約10分 「東京外国語大学前」下車

[Google マップ](#)



キャンパスマップ



お問い合わせ

東京外国語大学 広報・社会連携課（土日祝をのぞく 9:00-17:00）
〒183-8534 東京都府中市朝日町3-11-1
Tel: 042-330-5441

[TUFS Cinemaウェブサイト]

<https://www.tufscinema.jp>

[東京外国語大学ウェブサイト]

<http://www.tufs.ac.jp>

[イベント情報などの配信]

TUFS Cinema 上映会情報は、Facebook／Twitterでも配信しています。TUFS Cinemaファンの皆さま、ぜひフォローしてください。

Facebook: <https://www.facebook.com/tufscinema.pr/>

Twitter: [@tufscinema](https://twitter.com/tufscinema)

<input type="text"/>	検索
----------------------	----



© 2017 Tokyo University of Foreign Studies.
All Rights Reserved.